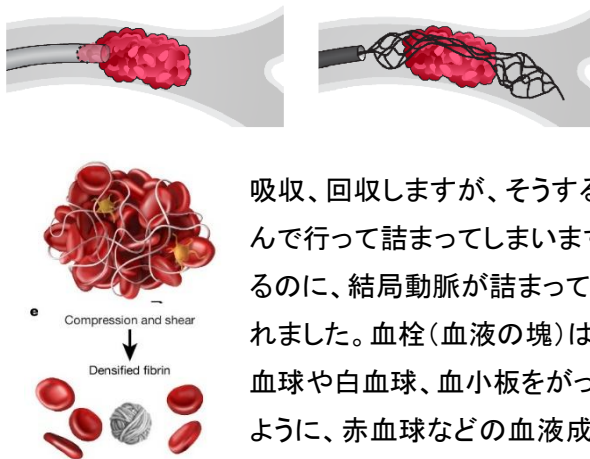


カテーテルを用いた新しい血栓除去術（ミリ スパイナー）

御利用者様および御家族様には、日頃大変お世話になっております。

今回の話題は、血管の中に血栓（血液の塊）が詰まったときに、これをカテーテル手術で取り除く時の新しい治療法です。「ネイチャー」という世界一有名な雑誌に 6 月に発表されました。すでに時間がたっていますから、いろいろな雑誌などに紹介され、皆様も御存じかもしれません。

血栓の治療は何といっても心臓の分野（循環器）が進んでいます。1980 年代初めから、カテーテルで直接、心臓の動脈（冠動脈）に血栓溶解剤を注入する治療が始まっています。1990 年代には、ステント治療は当たり前になっています。脳の治療はずっと遅れています。2005 年にやっと TPA という血栓溶解剤を末梢血管から点滴する治療が認可されました。2014 年頃からはカテーテルで血栓を吸引する方法や、レトリバーという網のような道具で血栓を回収する方法が広く行われるようになりました。余談ですが、レトリバーという犬種は獲物を「回収」するのが得意な狩猟犬なので「レトリバー」と呼ばれているようです。下の図 は、カテーテルでの血栓吸引と血栓回収（レトリバー）の絵です。でも、問題があります。それは



は血栓が大きすぎると、カテーテルによる吸引では取り除けず、レトリバーによる回収もできません。血栓を破壊して小さくして

吸収、回収しますが、そうすると、細くなった血栓が動脈の先（末梢）に飛んで行って詰まってしまう。せっかく血栓を回収して治療しようとしているのに、結局動脈が詰まってしまう。そこで今回の新しい方法が開発されました。血栓（血液の塊）は、フィブリンという固い繊維のタンパク質が、赤血球や白血球、血小板をがっちり取り囲んで出来ています。そこで左の絵のように、赤血球などの血液成分を細かく壊しながら吸引し、フィブリンという固い繊維質のタンパク質だけに丸めていきます。これにより、もともとの血栓

の 5%しかない小さな塊にすることができるそうです。そうなれば吸引するのも回収するのも簡単です。下の絵は、大きすぎてカテーテルでは吸引や回収できなかった血栓を、この方法で小さなフィブリンの塊にして、これから吸引か回収をするところ。これにより、今までは血栓が大きすぎて治療（吸引や回収）できなかった脳梗塞や肺塞栓の治療が可能になるという研究です。まさに「画期的な治療器具」と思います。このような新しい医療器具の開発も、薬剤と同じように「治験」が行われて「認可」がなされます。実用化されるまでには、まだ 2-3 年はかかるかと思います。血栓を丸めて小さくしてしまうという発想は素晴らしいですね。

今後とも 老健施設はみんぐ を宜しく願い申し上げます。

2025 年 8 月 20 日 かめたに ひろし

f

